

該当番号	意見の要旨	当日の区長回答（一部抜粋）	議事録該当箇所
1	<p>Aグループ提案：「再開発をやめましょう」</p> <p>再開発と聞くと、下町ではなくなってしまふ、緑も減って人工的なものになってしまう、個人商店の経営が難しくなるなどの課題が思い浮かぶ。「再」という言葉から連想される、自分たちが作ってきたものがいけなかったのではないかというイメージの払拭と、今までよかったものはより良く、イマイチだったところは少しでもよくできる新しい試みをしていこうという思いを込めて「再開発」という言葉をつくった。「再開発」をする中でも、町の人が主体になって一緒に考えていくことを重要視していきたい。僕たちみたいな、今後墨田区に住むであろう人々の意見も、より聞いていただけると嬉しい。再開発をするなら、そのためのタウンミーティングをするというのではないか。</p> <p>さらに、防災の話もあった。木造建築の耐震構造など、法律上は仕方がないとしても、やっぱり下町の雰囲気は残していきたい</p>	<p>京島辺りに見られるような、墨田の良さを残した方がいいという提案だと思うが、同感である。区内のそれぞれの町に特徴があって、不易流行というものがある。流行もどちらも捉えて区政運営をしていく必要がある。</p> <p>若者ならではの「再開発」という意味合い、街を思い切って変えるだけでなく、慎重に丁寧に、墨田区の良さを残していくまちづくりという点で、大いに参考にさせていただく。</p> <p>また、墨田区の課題として、木造密集家屋等の防災上の話はある。ただ、耐震化、耐火構造などで現在の建築技術も進化しているので、単にコンクリートにしていくのではなく、そういった手法を研究し、改修していくという考えは持っていないといけないと思う。</p> <p>【所管課補足】</p> <p>まちづくりを進めるうえで、街が持つ個性をなくさないようにすることを一番に心掛けている。そのために広く区民の意見を丁寧に聞ける機会を、例えばワークショップやSNS等を活用したアンケート調査の実施など、様々な形で設けている。開発には年月を要することから10年・20年先にまちの担い手となるような若者の意見を取り入れることも大切であると考えている。</p>	1,2ページ Aグループ
2	<p>Bグループ提案：「学生や若者などが活躍しやすくなる支援制度」</p> <p>団体設立と活動支援の2点。</p> <p>団体設立は、団体と団体をつなげる団体が今ない。団体同士の交流会のようなものができるといい。交流会を開くための団体を設立したいと思った。</p> <p>活動支援は、区外の人にも、区内で活動している人に対するサポート制度がほしい。墨田区内で活動しやすくなり、活動する人が定着し、継続性も生まれてくると思う。</p> <p>墨田で多くの若者が活動できるようなサポート制度を作っていたらと思う。</p>	<p>起業や団体設立をしないか何とできないかというところではないので、皆さんからいろいろな話を伺うことで団体設立のきっかけをつくるのが大事なのだと思う。まずは意見交換をして自分たちでこんなことをやってみたい、延いてはこういう団体を設立できれば、その段階としていい提案だと思った。</p> <p>区外の方に対して、私は一切ボーダーを引いていない。だからといって、区の税金を区外の人に積極的に使うことも出来にくい。墨田区のPRをするとシティプロモーションにつながり、それが区外の方にも伝わっていくので、情報発信を続けていくことが大切だと思う。</p> <p>【所管課補足】</p> <p>区民の地域への愛着と誇り（シビックプライド）を持続的に醸成することを目的に、「すみだ伝え合いラボ」を開催している。本事業は、町会・自治会や区内で活動するボランティア団体、NPO法人など様々な地域団体の広報活動への支援と、日々変化する情報発信について、情報交換が行える交流の機会を創出し、各団体の広報活動の活性化と団体間での共感の輪を広げ、伝え合う気持ちを育てていくことを目指している。また、NPO協議会などとのつなぎや、活動団体の紹介などを通して、つなぎを意識した事業展開をしていく。</p> <p>活動支援に関しては、区内の課題解決に資する活動には、基本的に支援を検討していく。</p>	2ページ Bグループ
3	<p>Cグループ提案：「もっと使いやすいすみまくん」</p> <p>一方通行、ルートが固定化されすぎている、道路が狭い町には運行しないことなどが理由で、使いづらい。その問題を解決するために2案を提案する。</p> <p>①AIを利用したバス 複数の利用者が設定したルートをAIが自動で計算して、最適ルートをとるといったもの。</p> <p>②グリーンスローモビリティの導入 道が狭くても運行しやすい。また普通免許だけで運行できて、速度も遅いので高齢者の方でも運転しやすい。</p> <p>例えば地元民向けのルート設定をしたものの他に、京島地区や向島の花街など観光客も利用できるルートを設定することで、様々な目的の人が乗り合わせることで、車内での交流が期待されるのではないかと。</p>	<p>都バスなど民業を圧迫しないバスルートをつくって区民に利用してもらおうという制限がかかる取組になっている。常に課題であると思っているので、ルートの変更等はしっかり考えていきたいが、どうしても限界があるものでもある。2024年問題、バスや物流ドライバーの働き方改革によって、バスの運行時間はさらに制限され、人手不足という問題にも直面してくるので、今後も区民に使っていただけるように、バスルートをしっかり考えていく必要がある。</p> <p>続いてグリーンスローモビリティについて、観光面、利便性、区民の足として、どのように活用できるか。ライドシェアの話もあり、様々な実験もされているが、これからの課題として研究していきたいと思う。</p> <p>【所管課補足】</p> <p>①AIを利用したバス AIを利用した交通としては、令和4年度にAIオンデマンドバス（すみタク）の実証実験を行っており、その結果は令和6年度の地域公共交通計画の策定にも活かしていく見込みである。ただし、道路幅員等の関係で、必ずしも必要とされるエリアへの乗り入れが難しいなどの課題があり、費用対効果の面で検討は必要である。</p> <p>②グリーンスローモビリティの導入 グリーンスローモビリティについては近隣の自治体でも実証実験等が行われている。どのような活用可能性があるか研究していく。</p>	3ページ Cグループ

4	<p>Dグループ提案：「この先50年、タウンミーティングを継続していく」 現状のタウンミーティングは、リピーターの方が多かったり、そもそもタウンミーティングをやっていることを知らない人がいたり、という状態だと思う。まだタウンミーティングの魅力に気づけてない人を取り込むために二つの提案をしたい。</p> <p>①申込みしやすくするためのイベントページLP（ランディングページ）を作る 現在区のHPに掲載されているページは硬い印象なので。</p> <p>②前回のタウンミーティングの様子をInstagramに上げる。 たくさんのフォロワーがいるし、前回の様子が見られると安心して申込みやすくなる。</p>	<p>タウンミーティングの良さ、大事さをすぐ理解して、その良さをみんなに伝える工夫を提案いただいた。</p> <p>【所管課補足】 多くの方にタウンミーティングの魅力や大事さを知っていただけるよう、ホームページの掲載内容（お知らせの内容や実施報告の内容等）を改善していく。また、他の広報媒体も活用しつつ、新規層の開拓につながるような工夫もしていく。</p>	4ページ Dグループ
5	<p>(No.6 Dグループ提案の続き)</p> <p>参加者の中からタウンミーティングの実行委員会を作って、50年続けられる仕組みづくりも必要だと思う。ここに集まっている人は墨田区大好きな人が多いと思う。ここで出たアイデアを小学校や児童館などに発信していき、小さい子も含めて様々な世代が参加できるようなタウンミーティングにしてほしい。</p> <p>実行委員会制はすぐやれることかなと思うので、ぜひ、次のタウンミーティングでやっていただけたら嬉しい。</p>	<p>子ども家庭庁が出来て、「子ども基本法」「子どもまんなか社会」が提唱されているが、私も子どもの声を聞きたいと思っている。子どもの声を聞きつつ、区政を運営していく、まさに法改正の趣旨なので、次のタウンミーティングでやらせていただきたいと宣言しておく。もう一点、子どもの声を聞く上では、年代の近い、今日いるような若い世代のみなさんが少しでも参画してくれたら、より良いものになりそうな予感がした。</p> <p>【所管課補足】 これまでも、「すみだタウンミーティング企画運営委員会」を立ち上げて、区民の皆さんや学生の皆さんに企画運営に参画いただいた。これからも、皆さんに企画運営に携わっていただくなど、工夫をして開催していく。</p>	4ページ Dグループ
6	<p>Eグループ提案：「お金のかからないフリースペース」 押上や曳舟エリアに、低予算で利用できる若者中心のフリースペース、コワーキングスペースを提案したい。「もちこみ屋」（食べ物を食べる交流）と「SIC」（コワーキングの事務的な部分）を掛け合わせたイメージ。関係人口の動きも含めて経済を良くしていきたい。主に経済力がない学生や若者が静かに学習できるようなスペースを作り、さらに交流のためのスペースも作る。周辺の地域の方が入ってくることで、より経済が活発化するのではないかな。</p> <p>商店街とコワーキングスペースの連携によって、例えば商店街で使える無料チケットを配布するといったことなどを実現できるといい。</p>	<p>関係人口アップは区のテーマとして持っているの、なんとか関係人口の一人になってもらって、今後参画してもらったり、区内に住んでもらったり、ということまでつなげていけるといいと思う。無料がいいかどうかは課題やご意見等あると思うが、公共施設をオープンにしてみんなに集まってもらうという方法もあり得ると思った。</p> <p>【所管課補足】 ①SICやコワーキングスペースについて SICは区内事業者との共創を志向するスタートアップやクリエイター等が集う場所として運営しているので、主には打ち合わせやアイデア出し等、交流を図る使い方を推奨している。こうした目的であれば、学生や若者のご利用も歓迎している。一方、静かに作業することや勉強することを主目的とする使い方に適している民間の施設もあるので、目的に合わせてご利用いただければと思う。</p> <p>また、区内にフリースペースやコワーキングスペースが少ないことは、区としても認識している。そうした現状を解決すべく、令和6年度から商店街がコワーキングスペースを創出した際の改修費や家賃を補助する「商店街コワーキングスペース創出事業」を新たに展開する。今後も、商店街と連携をとって地域の方にお越し頂ける環境づくりを進めていく。</p>	4,5ページ Eグループ
		<p>②児童館 墨田区内には14の児童館（室）がある。児童館は、18歳未満のすべての子どもを対象とした、自由に来館して過ごすことができる児童福祉施設である。日中は小学生が多く利用しているが、午後6時以降は、中学生、高校生の居場所として、広く利用いただいている。</p> <p>押上エリアには横川コミュニティ会館児童室が、曳舟エリアには東向島児童館があり、図書室も整備しているので、学習や他校・異学年交流等の場として、利用いただける。</p> <p>③図書館 墨田区立図書館では、閲覧スペースや学習スペースを設けている。また、昨年、ひきふね図書館2階展示スペースでも学習しやすいよう机等を置き、スペースを増設した。今後、コロナ禍で利用を中止していたミーティングルーム（利用条件あり）を開放していく。</p>	4,5ページ Eグループ

7	<p>Fグループ提案：「空き家を使った多世代交流」</p> <p>空き家を活用した「すみだのおうち」をつくりたい。家に帰って一人で過ごしている小学生や、不登校の子、さらにはお年寄りなどが気軽に来て、家のような感覚で多世代の人が繋がれる場所として活用できたら。</p>	<p>まずは空き家の利活用について。墨田区に関わらずいろいろな地域で空き家が発生しているという社会問題があり、行政としての課題でもある。どういう風に活用するのかということだが、空き家は所有者の財産なので、予算で買い取るのか等の課題はあるが、空き家に目をつけたことが大事なキーワードの一つ。</p> <p>また、多世代の交流の場、つながりの場というのは、墨田区らしくて大事な提案だと思う。下町墨田の良さを体感できたり、具現化できたりする「すみだのおうち」構想もとてもいい提案だと思う。おうち化して誰が運用していくかなど具体的な課題はあるが、非常に真髓を突いていた。</p> <p>【所管課補足】</p> <p>多世代交流の場としては、区では社会福祉協議会に委託し、世代や、属性を問わない居場所と相談の場として地域福祉プラットフォームを3か所開設している。子どもからお年寄りの方までどなたでも参加、利用できる。</p>	5,6ページ Fグループ
8	<p>Gグループ提案：町工場を消したくないという思いから、「町工場を知ってもらう」ための提案</p> <p>墨田の特徴という「町工場」がある。町工場の方とお話する機会があったが、後継者がいないという話を聞いた。町工場の勤め方等、情報発信が足りていないのではないかなと思うので、人事サイトを作るのがいいのではないかな。ただ、町工場は少人数のところが多く、一人に対する責任が重いので、サイトを見て来た見知らぬ人が勤めるような形になってしまうのは不安があると思う。例えば、中高大学生向けにインターンしてもらったり、部活動などと組んで町工場の方と交流したりすれば、若者に町工場を知ってもらえるのではないかな。学生と町工場と人が集まる場所を作っていければ。</p> <p>町工場は経営と技術力両方が必要なので、経営側は町工場法人連合のようなものを作って、ある程度まとめてもいいのかもしれない。</p> <p>人をつなげることで必然的に実現可能ではあるが、文化の継承にも引き続き取り組んでもらいたい。継承する側も、墨田区の文化や技術がきちんとわかるように、情報として開示していただけたらと思う。</p>	<p>コロナで休止していたが、再開したらぜひスミファに行ってほしい。多くの町工場が工場見学をオープンにやるもので、ものづくりの良さを感じられる取組をやっているの、再開後、皆さんも来てもらって、目で見てもらうことが大事だなと思う。そこからまたヒントが生まれる気がする。</p> <p>すでに濱野製作所というリーダーがハブとなって、うまく繋がっている現状がある。また、フロンティアすみだ塾といって、若手の後継者が切磋琢磨して仕事を継いでいくという経営者塾があって、その出身者が約200人になった。そういう人達が墨田区を支えているという現状もある。つなぐ役目を果たすのは区役所の役割でもあるが、法人連合体というのはいいアイデアで、いいところをついていると思う。</p> <p>文化の継承についても、我々も非常に重視している。最近では盆踊りが復活してから人が集まるようになったが、大相撲や花火大会など、江戸時代からの文化も息づいているという点で、ものづくりや町工場も同様に継承していったらというのも全くその通り。</p>	
		<p>【所管課補足】</p> <p>①情報発信について:区内中小企業事業者の人材不足は大きな課題であり、これを解消するための取組が必要であると認識している。そのため区では、雇用促進と就労支援を目的としたウェブサイト「ジョブすみだ」を開設し、事業者が求人情報や内職情報を自由に掲載できる場を運営している。なお、求職者が求人情報を検索・閲覧する際は、個人情報等の登録をせずに利用することができる。</p> <p>②スミファについて:令和5年はイベントが休止となったが、令和6年は、新たな体制でイベントを再開する予定である。例年は秋、11月頃に開催しているので、イベントが再開したら、ぜひ、工場見学等に参加いただきたい。</p> <p>③技術の継承:区では、区内産業と区内生産品が正当な評価を受け、さらにより高い評価を受けるようにするためのイメージアップ運動として、「小さな博物館 (Museum)」、「マイスター (Meister)」、「工房ショップ (Manufacturing Shop)」の3つのMの頭文字を取って「3M (スリーエム) 運動」を展開している。この運動における「マイスター」運動では、すみだの産業を支え、付加価値の高い製品づくりの技術を体得した技術者をマイスター (ドイツ語で「職人の親方」の意) に認定しており、マイスターの技術を公開することにより、次世代へ継承するとともに、新しい技術の育成を図ろうとしている。</p>	6,7ページ Gグループ